

OSINT

LIVE CONNECTIONS VIEWER

ボードが何を伝えているか、判定が何を意味するか、そしてそれぞれにどう対処するか — 平易な言葉で説明します。

仕組み

ユーザーマニュアル・2026年10月

777 SOFTWARE 無料 — 永久に無料

1 — OSINTとは

インターネットに触れるコンピュータ上のすべてのプログラム — ブラウザ、メール、アップデート、ゲーム — は接続を保持しています。あなたのマシンとインターネット上のアドレスとの間の、生きている回線です。ほとんどの人はそれを目にすることはありません。OSINTはそれをライブで表示します — あなたのコンピュータが今まさに保持しているすべての接続を、平易な行で、接続の出入りに合わせて数秒ごとに更新しながら表示します。

回線を見ることは、その半分にすぎません。ボード上の外部アドレスごとに、OSINTは公開されている安全リストと照会サービスを確認します — セキュリティ担当者が使うのと同じ公開記録です — そして平易な答えを返します。この接続は既知の安全なものか、悪評がないか、疑わしいか、あるいは既知の悪質なもののか、という答えです。すべての答えには根拠が示されます。各確認が何と言ったか、そしてそれがどれくらい前のことかです。

窓のそばに参考調査の司書が立っているようなものだと考えてください。司書は公開されている本でアドレスを調べ、ページを見せてくれます。判断はあなたのままです。

OSINTはビューアでありアドバイザーです — それ以上ではありません。接続をブロックすることも、閉じることも、コンピュータやネットワーク上の何かを変更することも決してありません。スキャン、ping、相手側への探査も行いません。コンピュータがすでに保持している接続リストを読み、そこにあるアドレスについての公開記録を読み、見つけたことを伝えます。接続を止める必要がある場合は、それを作ったプログラムを閉じることで行います — §3で、それがいつ行う価値があるかを平易な言葉で説明します。

OSINTはインストールしたマシン上で動作し、そのマシンの接続を表示します — ノートパソコンで開けば、ノートパソコンの回線が見えます。窓は1つ、ボードは1つ、仕事は1つです。接続が安全かどうかについて、良い判断ができるよう支援することです。

2 — ボードの読み方

ボードは表です。各行が1つの接続です。各列の意味を左から右へ説明します。

列	平易な言葉での意味
STATE («状態»)	接続が今何をしているかです。ESTABLISHEDは回線が開いて通信していることを意味します。LISTENはプログラムが誰かの接続を待っていることを意味します。TIME_WAITなどの状態は、接続が終了しつつあり閉じようとしているものです。UDPの行は「開いた回線」という状態を持たない種類の接続です — これは正常です。
LOCAL («ローカル»)	回線のあなたの側の端です。あなたのコンピュータのアドレスと、あなたの側が使っている番号（ポート）です。これがあなたです。
REMOTE («リモート»)	回線の相手側の端です。あなたのコンピュータが通信している外部アドレスとポートです。確認の対象はこれです。
TAG («タグ»)	単純なローカルルールによるラベルです。LOCAL_LAN = あなた自身の家庭内ネットワーク上のアドレスです。LOOPBACK = あなたのコンピュータが自分自身と通信していることです。SAFE_… = あなた自身のタグファイルにあなたが書き込んだ名前です（出荷時は空です — SAFE_ラベルはあなたが書き込んだ場合にのみ存在します）。EXTERNAL_NODE_… = その他のすべての相手です。見知らぬ相手で、同じ見知らぬ相手が毎回同じタグを持つよう短いコードが付きます。タグはあなたのラベルです — 警告を隠すことは決してありません（§3）。
HOST («ホスト»)	リモートアドレスの名前です（公開されている場合）。名前が見つからない場合は、単に — と表示されます。OSINTが名前を推測することは決してありません。
VERDICT («判定»)	そのアドレスが安全かどうかについての答えを、平易な言葉で示します — §3の主題です。あなた自身のネットワーク上の行と待ち受け行は — と表示されます。プライベートアドレスはどこにも送信されず、判定もされません。判定するための公開記録が存在しないからです。

ボードの習慣

- **呼吸をします。** ボードは5秒ごとに接続を読み直し、ヘッダーには次の更新までのカウントダウンが表示されます。新しい接続が現れ、閉じた接続は消えます。Refresh now («今すぐ更新») は即座に読み直します。Pause («一時停止») はボードを静止させ、読めるようにします。
- **フッターが数えます。** 一番下の行は、接続が何件あるか、そのうち外部が何件か、確認がどう進んでいるか、ダウンロードした安全リストがどれくらい古いかを伝えます — 古い情報は常に古いとラベルされます。
- **リスナーは下の方に、薄く表示されます。** それらは接続を待っているもの — 接続を受け入れる準備ができたプログラム — で、全体像の一部であり、邪魔にならないよう置かれています。
- **標準の順序では、危険が浮かび上がります。** ボード自体の順序では、まず KNOWN BAD («既知の悪質») が最初に、次に SUSPICIOUS («疑わしい») が、次にまだ確認中の行が、次に NO BAD REPORTS («悪評なし») と KNOWN SAFE («既知の安全») が来ます — あなたの目が必要な行が最初に目に入ります。（§5ではボードを自分で並べ替える方法を示します。）

3 — 判定

判定とは、確認がそのアドレスについて述べたすべてのことに対する、最も悪いほうの正直な読み取りです — 平均でも推測でも決してありません。判定は4つあり、正直な「判定ではない」状態が3つあります。

判定	意味
✓ KNOWN SAFE («既知の安全»)	アドレスが既知の正当なサービスとして確実に特定されています — 例えば、既知の良性サービスの公開セットの中にあり — どの確認でも悪いものは見つかりませんでした。「悪い知らせがない」だけではこれを得ることは決してできません。特定できて初めて得られます。
・ NO BAD REPORTS («悪評なし»)	確認が実行され、公開リストのどれもこのアドレスについて悪いことを言っていない。書かれている通りに読んでください。誰も報告していないという意味であり、安全であるという約束ではありません。ほとんどの普通のアドレスはここに当てはまります。
⚠ SUSPICIOUS («疑わしい»)	誰もこのアドレスが悪いことを証明していませんが、何かがおかしく見えます。不正な動作をしていると報告されている、1つか2つのスキャナーがフラグを立てている、インターネットをスキャンしているのが目撃されている、あるいは既知の欠陥をさらしているのに誰もそれが誰かを特定できない、といったことです。より詳しく見る価値があります — 詳細ペイン (§ 4) に、フラグを立てた原因が正確に示されます。
KNOWN BAD («既知の悪質»)	アドレスが既知の悪質なアドレスの公開リストに載っています — 例えば、稼働中のボットネット指令サーバーのリストなど — あるいは複数の強力な確認が悪質であると一致しています。そこにある理由を正確に把握するまで、接続を危険なものとして扱ってください。
… CHECKING («確認中»)	このアドレスの照会はまだ実行中です。ボードは更新を続け、答えはその下に埋まっています。数秒お待ちください。
NOT CHECKED («未確認»)	このアドレスではまだ確認が実行されていません — 現れたばかりか、無料枠を使い切ったかです。ペインにどちらかが示されます。これはアドレスについての記述ではなく、確認についての記述です。
LOOKUP FAILED («照会失敗»)	確認を完了できませんでした — サービスが応答しなかったか、問い合わせるための接続がありません。このアドレスは不明であり、問題なしとされたわけではありません。オフラインの場合、ボードには OFFLINE — CACHED ONLY («オフライン — キャッシュのみ») と表示され、すべての判定はダウンロードしたリストと保存した照会から得られ、その古さも表示されます。

それぞれへの対処

- **KNOWN BAD («既知の悪質»)** — 止まって確認してください。あなたのコンピュータがそのアドレスと通信している理由が正確に分からない場合は、接続を作ったと思うプログラムを閉じ、通常のウイルス対策スキャンを実行し、問題を整理するまでは機密情報を送信しないでください。OSINTが代わりにブロックすることはできません — プログラムを閉じることがブロックになります。
- **SUSPICIOUS («疑わしい»)** — パニックにならず、もう少し詳しく見てください。詳細ペインを開き、フラグを立てた原因を読んでください。接続が現れたときに何をしていたか思い当たらない場合は、使っていなかったアプリを閉じ、再び現れるかどうか観察してください。

- **NO BAD REPORTS (「悪評なし」)** — 何もすることはありません。
通常のルールを守ってください。サービスに心当たりがある場合 —
ブラウザ、アップデート、メール — これは普通のインターネットトラフィックです。
- **KNOWN SAFE (「既知の安全」)** — 何もすることはありません。これはあなたのコンピュータが一日中行う種類の接続です。DNS、アップデート、大規模な公開サービスです。
- **CHECKING (「確認中」) / NOT CHECKED (「未確認」) / LOOKUP FAILED (「照会失敗」)** —
確認が終わっていないか応答しなかったため、まだアドバイスはありません。
不明な接続は悪い接続ではありません。その間はペインの WHO IS THIS? (「これは誰ですか?」) セクションを使い、照会が完了したら再び確認してください。

正直なルールです。私たちに守らせるためにも覚えておいてください。報告がないことは約束ではありません — クリーンな確認は「誰も報告していない」という意味であり、「安全が証明された」という意味では決してありません。失敗した照会は FAILED (「失敗」) とははっきり言います。OSINTが失敗をクリーンな答えにごまかすことは決してありません。2つの確認が食い違う場合は、判定は悪いほうの読み取りに従い、ペインには両方の記述が表示されます。そしてすべての事実にはその古さが伴います。答えがどれくらい新しいかが常に分かります。

ボードが守るもう1つの区別です。タグ (§2) はあなた自身のラベルです —

「これは知っている」。判定は公開記録が言うことです。あなたが SAFE_ とタグ付けしたアドレスにリストがフラグを立てる場合、行には両方が表示され、判定が先に来ます。ラベルが警告を隠すことは決してありません。

4 — 接続を選ぶ

ボード上の行をクリックすると、それがあなたの選択になります — 窓にフォーカスがなくても読みやすい濃い緑色で強調表示されます。選択は常にちょうど1つの接続であり、リスト上の場所ではなく接続自体に従います。更新、並べ替え、スクロール、一時停止で強調表示が別の接続にずれることは決してありません。選択した接続が閉じた場合、ペインはそれを平易な言葉で伝えます — 「This connection has closed — pick another row above» (「この接続は閉じました — 上の別の行を選んでください」) — 別のものを静かに表示するようなことはしません。

詳細ペイン

ボードの下にある詳細ペインは、選択した接続の物語を3つの固定セクションで伝えます。

- **WHO IS THIS? (「これは誰ですか?」)** — 公開されている名前（または正直な「公開されている名前はありません」）、アドレスを所有するネットワーク、おおよその所在地、その登録国（書類上の国です — これは所在地の証明ではないことをペインははっきり述べます）、そして一致するあなたのタグ。
- **WHAT THE CHECKS SAID (「確認の結果」)** — すべてのソースを1行ずつ示します。既知の悪質なもののリスト、そのアドレスがさらしているもの、有効にしたキー付き確認のそれぞれ — 何と言ったか、いつ確認されたかです。失敗したソースは、その行自体でそのことを述べます。
- **WHAT SHOULD I DO? (「私はどうすべきですか?」)** —
この判定に対するガイダンスを平易な言葉で示します (§3にも同じ文があります)。

ペインはアドレスについて説明するもので、それを使うプログラムについてではありません — 確認はアドレスについて知っているものであり、ペインがそれ以上を知っているふりをすることは決してありません。

確認ボタン ペインの下にはボタンがあります。各ボタンはあなたの選択に対してのみ動作します。

ボタン	動作
Check with GreyNoise («GreyNoiseで確認»)	選択したアドレスについてGreyNoiseに尋ねます。インターネットの背景ノイズ — 誰にでも押し寄せるスキャン — か、それよりも珍しいものか、ということです。キーなしで動作し、小さな無料の1日枠の中で動作します。その日の枠を使い切ると、ペインは平易な言葉でそのことを伝え、他のすべての確認は動作し続けます。
Check with VirusTotal («VirusTotalで確認»)	数十のセキュリティスキャナーに選択したアドレスについて投票させ、その数を公開して表示します。あなた自身の無料のVirusTotalキーが必要です (§ 6) — キーが保存されていない場合、ペインは静かに失敗するのではなく、OFF («オフ») であると伝えます。
Check with URLhaus («URLhausで確認»)	abuse.chのURLhausに尋ねます。このホストはマルウェアリンクを提供したことがありますか？と言うべきことが何もない場合は静かです。ある場合は ⚠ 警告行が表示されます。あなた自身の無料のabuse.ch Auth-Keyが必要です (§ 6)。
Copy IP («IPをコピー»)	選択した接続のアドレスをクリップボードにコピーします。あなた自身のツールで使えます。

アプリ全体が構築されているルールです。確認は、あなたが実際に選択した接続に対してのみ — 詳細ペインが表示しているのと同じ接続に対してのみ — そしてその確認自体のボタンをクリックしたときにのみ実行されます。何も選択されていない場合、または選択が閉じた場合は、照会は一切送信されません。アプリはまず接続を選ぶよう伝えます。確認は外部接続に対して動作します — 自分の家庭内ネットワーク上の行を選ぶと、ペインは「Pick an outside connection first» («まず外部接続を選んでください») と答えます。

正直な例外が2つあり、どちらも公開されています。AbuseIPDBにはボタンがありません — キーを保存すると、ボード上の外部アドレスに対して確認に自動的に加わり、その行は WHAT THE CHECKS SAID («確認の結果») に他のものと一緒に現れます。そして Settings («設定») には任意のスイッチが1つあります — Auto-check SUSPICIOUS rows with GreyNoise («SUSPICIOUSな行をGreyNoiseで自動確認») — あなたがオンにしない限りオフです。これは、Grey Noiseの無料枠が小さいため存在し、それを使うかどうかはあなたが決めるべきだからです。クリックなしで起こり得るのはこれだけであり、どちらもあなたの管理下にあります。

5 — 並べ替え + フィルター：あなたの順序、あなたの切り口

並べ替え — 列名をクリック

- ボード上部の STATE、LOCAL、REMOTE、TAG、HOST、VERDICTのいずれかをクリックすると、ボード全体がその列で並べ替えられます。列名の矢印は、どの列が担当で、どちらの方向に進むかを示します。同じ名前をもう一度クリックすると方向が反転します。
- VERDICTはアルファベット順ではなく危険度順に並べ替えます。最初のクリックで KNOWN BAD («既知の悪質») が一番上に、次に SUSPICIOUS («疑わしい») が、次にまだ処理中のクラス (CHECKING… («確認中…») / LOOKUP FAILED («照会失敗») / NOT CHECKED («未確認»)) が、次に NO BAD REPORTS («悪評なし») が、次に KNOWN SAFE («既知の安全») が来ます。判定がまったくない行 —

待ち受けソケットとあなた自身のネットワーク — は常に下の方に残ります。判定がないことは危険レベルではありません。

- アドレスは実際の数値で、次にポートで並べ替えられます — そのため 9.9.9.9 は 10.77.0.10 より前に来ます。アドレスが実際に数える方法であり、表記どおりではありません。
- あなたの並べ替えは更新を生き延びます。新しい接続は、あなたの選んだ順序を倒すのではなく、その順序の中に収まります。

フィルター — FILTER («フィルター») 行

- 判定を1つ選びます — 例えば SUSPICIOUS («疑わしい») — するとボードにはその判定を持つ行だけが表示されます。
- Text («テキスト») ボックスに入力すると、ボードには HOST、LOCALアドレス、REMOTEアドレス、または TAG にあなたのテキストを含む行だけが表示されます。大文字小文字は関係ありません。
- カウンターは真実を伝えます。「showing X of Y» («Y件中X件を表示») です。
- Clear («クリア») でフィルターを消去します。あなたの並べ替えは残ります。

フィルターはあなたが見るものだけを変えます。すべての接続は以前とまったく同じように確認され続けます。フィルターが何かをどこかへ送信することは決してありません。そして、選択していた接続をフィルターで見えなくした場合、詳細ペインは平易な言葉でそのことを伝えます — 「this connection is hidden by your filter right now — it is still the connection the check buttons will use» («この接続は現在あなたのフィルターで隠されています — 確認ボタンが使う接続は引き続きこれです») 。ボタンがあなたが選んでいない行にずれることは決してありません。

並べ替えとフィルターはこのセッションだけのものです。アプリを再起動すると、ボードは標準の順序で全体が戻ってきます。それらについて何も保存、送信、共有されることはありません。

6 — 設定 + キー

Settings («設定») ボタン (下部バー) で Settings ウィンドウが開きます。そこには任意のキーフィールドが4つ、スイッチが2つ、キャッシュボタンが1つあります — それだけです。キーとは、サービスが無料で提供する短い秘密のテキスト行で、アプリがあなたの名義で質問できるようにするものです。すべてのキーは、あなた自身のキーを追加するまでオフです。

キー (Settings フィールド)	有効になるもの
AbuseIPDB key («AbuseIPDB キー»)	「このアドレスは不正な動作をしたと報告されていますか？」という最良のスコアです — 悪用信頼度スコアを100点満点で、報告件数とともに示します。保存すると、この確認は自動的に実行されます (§ 4) — ボタンはありません。
VirusTotal key («VirusTotal キー»)	Check with VirusTotal («VirusTotalで確認») ボタンです。数十のスキャナーがアドレスについて投票します。正直な注意点が、VirusTotal自身の警告の中にあります。彼らのAPIを通じて照会されたアドレスは、VirusTotalのデータセットに追加され、彼らのコミュニティがアクセスできるようになります。同じ警告が Settings のフィールドの横にもあります。

キー (Settingsフィールド)	有効になるもの
abuse.ch Auth-Key («abuse.ch認証キー»)	Check with URLhaus («URLhausで確認») ボタンです。このホストはマルウェアリンクを提供したことがありますか？
GreyNoise key («GreyNoiseキー»)	GreyNoiseはキーなしで動作します。キーは小さな無料枠を少し引き上げるだけです（無料キーは週に約50回の照会までです）。GreyNoiseは勤務先メールアカウントにキーを提供します。個人メールアカウントには提供されません — それが彼らのルールであり、キーなしボタンが製品としての答えです。

キーのあり方とスイッチ

- Save Settings («設定を保存») はすべてを保存します — 4つのキーと2つのスイッチのすべてを、あなたが残した通りに、永続的に、あなたが変更するまで保存します。アプリを再び開いたときにもそこにあります。
- あなたのキーは、あなたのコンピュータ上の1つのファイルの中だけにあります。osint_settings.json で、プログラムの隣にあり、あなた自身のユーザーアカウントだけが読めるようロックされています（権限 0600）。ファイルがアップロードされることも、ログに印刷されることも、ダウンロードの一部になることも決してありません。キーは、その確認を実行するときに、そのサービス自体にのみ送信されます。
- Live lookups ON («ライブ照会オン») — これをオフにすると、アプリはオフラインモードで動作します。ボードには引き続きライブ接続が表示され、判定はダウンロードしたリストと保存した照会からのみ得られ、その古さも表示されます。
- Auto-check SUSPICIOUS rows with GreyNoise («SUSPICIOUSな行をGreyNoiseで自動確認») — デフォルトでオフです（§ 4）。アプリに小さな無料のGreyNoise枠を自動的に、疑わしい行に対してのみ使わせたい場合にのみオンにしてください。
- Clear Intel Cache («インテリジェンスキャッシュをクリア») (アプリ内) は、ダウンロードしたリストと保存した照会を実際に空にします。次の照会では単に新しいコピーを取得します。
- キーを削除するには、そのフィールドをクリアして Save Settings («設定を保存») を押します。その確認は再びオフになります。（GreyNoiseは単にキーなし枠に戻ります。）

キーを取得するには、ステップごとに進めます。付属ガイド OSINT — Getting Your Keys (OSINT-Getting-Your-Keys.pdf)

がこのプログラムに同梱されており、各無料サインアップを順に説明します — どこへ行くか、メールのどのリンクをクリックするか、キーがどこに表示されるか、上のフィールドにどう貼り付けるかです。そこにあるキーはすべて無料です。ページがカードを求めてきたら、あなたは間違ったプランにいます。

7 — プライバシー：すべての真実

OSINTにはアカウントも、テレメトリも、分析も、アップデート確認も、クラッシュレポートもありません — そして、どこかが電話をかけてくるような私たちのサーバーありません。777 Softwareにサインアップするものは何もなく、あなたについての情報が収集されることもありません。行き先が存在しないからです。

判定を行うために、アプリは外部サービスに対してアドレスについて尋ねます — すでにボード上にある外部アドレスについてです。アドレスについて尋ねるのであり、あなたについて尋ねることは決してありません。あなたのコンピュータから送信されるものの完全なリストは次の通りです。

送信先	送信されるもの
公開安全リストのホスト (abuse.ch Feodo Tracker + SSLBL、CIS Aの悪用された欠陥のカatalog)	あなたの接続については何も送信されません。アプリは公開リストを丸ごとダウンロードします。新聞をダウンロードするようなものです。それらの確認はその後、あなた自身のマシン上で行われます。
Shodan InternetDB・Team Cymru・ipapi.co	確認されている外部アドレス — 一度だけ送信され、その後は答えがあなたのマシンに保存されます (最初の2つは1日、大まかな位置情報は1週間)。再び尋ねる代わりです。
GreyNoise・AbuseIPDB・VirusTotal・URLhaus	確認されている外部アドレス — それに加えて、そのサービスに対するあなた自身のキーを、そのサービスにのみ送信します。GreyNoise、AbuseIPDB、VirusTotal/URLhausは § 4 と § 6 に記述されているとおりにのみ実行されます。
あなたの通常のDNSリゾルバー	外部アドレスを、名前に変換するため (HOST列) と、どのネットワークが所有しているかを調べるために送信します。

- **どこにも決して送信されません：** あなた自身のネットワーク上のアドレス、あなたのコンピュータ自体のアドレス、一式としてのあなたの接続リスト、開いているプログラム、あなたのタグファイルとあなた自身の SAFE_ 名、そしてあなたのキー (暗号化された接続で、それ自身のサービスに対してを除きます)。
- **アプリが保持するものはすべて自宅に保持します：** ダウンロードしたリスト、保存した照会の答え、あなたの設定とキー — すべてプログラムの隣にあるファイルの中、あなたのマシン上、あなたのものです。照会キャッシュは約10 MBを上限とします。
- **後で送信するためにキューに入るものは何もありません。** オフラインになっても、アプリは保存しているものから動作し続け、正直にラベルされます。再びオンラインになると、まだボード上にあるアドレスについて照会が単に再開します。

8 — 限界、正直に言います

信頼できるツールは、できないことを教えてくれます。OSINTのリストは次の通りで、完全です。

- **OSINTは助言します。保護はしません。** 接続をブロック、閉鎖、遅延させることはできず、ファイアウォールでも、ウイルス対策でも、そのどちらかの代わりでもありません。あなたの保護は引き続き、あなたのファイアウォール、ウイルス対策、そしてあなた自身の判断です — OSINTは判断材料を提供します。
- **クリーンな判定は保証ではありません。** NO BAD REPORTS («悪評なし») は誰もそのアドレスを報告していないという意味です — 生まれたばかりの悪いアドレスにも、まだ報告はありません。KNOWN SAFE («既知の安全») には確実な特定が必要であり、それでもそれは特定であり、明日についての約束ではありません。
- **表示するのは接続であり、犯人ではありません。** ボードはあなたのコンピュータが保持する回線を表示します。どのプログラムがそれぞれを保持しているかを名指しすると約束するものではなく、更新の間に開いて閉じる接続は見逃される可能性があります —

すべての接続ビューアがその限界を共有しており、5秒の更新がその隙間を小さく保ちます。

- **確認はアドレスを知っていますが、意図は知りません。** 公開記録は、アドレスが何をしているのが目撃され、誰が所有しているかを記述します。あなたのプログラムがなぜそこに接続したかは教えてくれません — その部分はあなたが思い当たるべきものです。
- **無料サービスには無料の限界があります。** 枠は使い切れ、サービスは静かになり、リストは古くなります。そのいずれかが起きたとき、OSINTは隙間を答えのように装うのではなく、平易な言葉でそのことを伝えます — しかし隙間は続く間は現実です。

疑わしい場合は、まず切断し、後で読んでください。接続が心配で、そこにある理由が言えない場合は、それを作ったと思うプログラムを閉じ（またはマシンを切断し）、その後ゆっくりペインを読んでください。再接続はいつでもできます。読むことは無料です。送信したものを取り消すことはできません。

以上です。ボードは1つ、正直な判定、あなたが言うときにのみ発動する確認、あなた自身のマシン上に置かれるキー、そして公に述べられた限界です。OSINTを開き、あなたのマシンが誰と通信しているかを見て、目を開いて判断してください。そのためのものです。

OSINT — Live Connections Viewer · 777 Software.

このマニュアルはプログラムに同梱されており、OSINT — Getting Your Keys も一緒です。ここに名前が挙がるサービスはそれぞれの担当者が運営しています。彼らのページは時間とともに再編されるかもしれませんが、このアプリの形 — ボードは1つ、正直な答え、どこにも電話をかけない — は変わりません。